



日本植物分類学会

ニュースレター

No. 9

May 2003

目 次

諸報告

2003年度第1回メール評議員会議事抄録.....	2
2003年度第1回評議員会議事抄録.....	2
日本植物分類学会第2回大会総会議事抄録.....	5
2002年度事業報告と2003年度事業計画について.....	6
会則と細則の変更について.....	6
2002年度決算報告.....	7
2003年度予算.....	8
日本植物分類学会第2回大会報告.....	9
シカ植食防止要望書について.....	10

お知らせ

平成15(2003)年度野外研修会のお知らせ.....	12
BG Plants和名-学名インデックスの公開について.....	14
日本植物分類学会2004年度大会について.....	15
「地衣類標本庫のなりたちと運営」講座のご案内.....	15
「菌類の多様性と分類」講座のご案内.....	16
書籍の著者割引のお知らせ.....	17
会費納入と自動振替利用のお願い.....	18

連絡員からときどき便り

中国四川省瓦屋山調査行・後編.....	19
藻(も)便り・1.....	20
蓼食う虫便り・1.....	22
会員消息.....	23

諸報告

2003 年度第 1 回メール評議員会議事抄録

庶務幹事 遊川知久

日時：2003 年 2 月 26 日～ 3 月 6 日

方法：電子メール等の媒体を用いた会議

出欠：メール会議につき、評議員全員と会長、役員が出席

- ・議長として加藤雅啓会長が選出された。
- ・議事録署名人として邑田仁氏と伊藤元己氏が選出された。

審議事項

日本学術会議の第 19 期会員候補、推薦人、推薦人予備者、各 1 名の選出について審議された。その結果、以下の各氏の選出が提案された。

会員候補：岩槻邦男

推薦人：加藤雅啓

推薦人予備者：伊藤元己

採決の結果、賛成 12、白票 1（西田）で承認された。

2003 年度第 1 回評議員会議事抄録

庶務幹事 遊川知久

日時：2003 年 3 月 14 日 17:10 ~ 20:00

会場：神戸大学瀧川記念学術交流会館

評議員：() 内は被委任者

出席：秋山弘之、今市涼子、堀口健雄、西田治文、邑田仁、原田浩、高橋英樹、
田村実、角野康郎、永益英敏

欠席：北川尚史（加藤雅啓） 伊藤元己（永益英敏）

役員：() 内は役職

出席：加藤（会長） 遊川（庶務） 横山（会計） 岡田（編集委員長） 布施（図書）
藤井（ホームページ） 秋山（和文誌編集責任者） 西田佐知子（ニュースレター
担当） 綿野（植物分類学会連合連絡会、日本分類学会連合） 西田治文（自然
史学会連合） 井上（絶滅危惧植物・移入植物専門第一委員会委員長）

欠席：柏谷（絶滅危惧植物・移入植物専門第二委員会委員長） 大橋（国際植物命名規

約邦訳委員会委員長) 岩槻(IAPT2004シンポジウム準備委員会委員長) 福岡
(関西地区講演会)

1. 評議員会開催にあたり、加藤会長から挨拶があった。
2. 遊川庶務幹事により、定足数が確認された。評議員出席10、会長1、委任状出席2で本評議員会は成立した。
3. 評議員会議長として高橋氏が選出された。
4. 議事録署名人として邑田氏と西田氏が選出された。

5. 報告事項

各担当幹事・役員から、以下の項目について説明がなされた。

5.1 会務報告

2002年度の事業報告、会員数、その他について。

5.2 会計報告

2002年度の会計報告、会費徴収について。

5.3 学会誌に関する報告

英文誌、和文誌の編集状況について。

5.4 ニュースレターに関する報告

ニュースレターの発行状況と印刷等の予算について。

5.5 図書関連報告

印刷物の発行状況、交換・寄贈状況について。

5.6 植物分類学関連学会連絡会報告

5.7 日本分類学会連合報告

5.8 ホームページ関連報告

5.9 関西地区講演会報告

5.10 自然史学会連合関連報告

5.11 各種委員会に関する報告

・学会賞選考委員会

第2回日本植物分類学会賞の選考と今後の方針について。

・植物データベース専門委員会

日本国内のタイプ標本の電子化について。

・IAPTシンポジウム2004準備委員会

・絶滅危惧植物・移入植物専門第一委員会

環境省版レッドデータブックの改訂作業、種の保存法による稀少植物種指定への助言作業、シカの植食防止のための要望書について。

・絶滅危惧植物・移入植物専門第二委員会

・国際植物命名規約邦訳委員会

国際植物命名規約邦訳本の編集作業と出版について

6. 審議事項

6.1 2002年度事業報告(案)について

遊川庶務幹事より説明がなされた。審議の結果、2002年度事業報告(案)が承認された。

6.2 2002年度決算報告(案)について

横山会計幹事より説明がなされた。審議の結果、一部訂正の上で、2002年度決算報告(案)が承認された。

6.3 2003年度事業計画(案)について

遊川庶務幹事より説明がなされた。審議の結果、2003年度事業計画(案)が承認された。

6.4 2003年度予算(案)について

横山会計幹事より説明がなされた。審議の結果、国際植物命名規約邦訳の出版費用を特別会計から支出することを新たに加えた上で、2003年度予算(案)が承認された。

6.5 国際植物命名規約(St. Louis Code)邦訳の出版について

国際植物命名規約(St. Louis Code)邦訳の出版に関わる予算措置について審議された。6.4に記したように、出版に関わる費用は特別会計から支出することが承認された。

6.6 国際シンポジウム(IAPT2004)開催について

予算規模について協議され、約900万円規模の予算で開催することが承認された。

6.7 絶滅危惧植物の保全のためのシカの植食防止の要望書について

井上絶滅危惧植物専門第一委員会委員長より「絶滅危惧植物の保全のためのシカの植食防止の要望書」の文案が提出され、その内容や体裁について審議された。その結果、指摘点を修正した上で関係各機関へ提出することとなった。

6.8 会則変更：編集長の任期変更(第13条3)

遊川庶務幹事より説明があり、審議の結果、承認された。

6.9 細則変更：会長選挙における候補者推薦(役員等の選出についての細則第2条)

遊川庶務幹事より説明があり、審議の結果、一部字句訂正の上で承認された。

6.10 細則変更：評議員選挙における同数得票者の措置(役員等の選出についての細則第4条)

遊川庶務幹事より説明があり、審議の結果、条文を検討し次年度の総会に諮ることとなった。

6.11 第3回大会開催地について

2004年3月13日(土)~15日(月)に広島大学で行うことが決定した。

日本植物分類学会第2回大会総会議事抄録

庶務幹事 遊川知久

日時：2003年3月15日 12:30 - 13:30

場所：神戸大学 百年記念館

1. 総会に先立ち加藤会長から挨拶があった。

2. 高橋英樹氏が議長に選出された。

3. 報告事項

3-1 役員等の委嘱について

遊川庶務幹事より2003-2004年度役員等の構成について説明があった。

3-2 会務報告

遊川庶務幹事より2002年度の会務報告が行われた。

3-3 逝去された学会員について

2002年に逝去された学会員に対して黙祷が行われた。

3-4 各委員会からの報告

・学会賞選考委員会

永益前委員長より、第2回日本植物分類学会賞は、白岩卓巳氏と堀田満氏に決定したことが報告された。

・IAPTシンポジウム2004準備委員会

加藤会長より現在の準備進行状況が報告された。

・絶滅危惧植物・移入植物専門第一委員会

井上委員長より前年度の活動、シカ植食防止の要望書を準備中であることが報告された。

・国際植物命名規約邦訳委員会

永益委員より前年度の活動について報告があった。

4. 審議事項

第一号議案 2002年度事業報告並びに2003年度事業計画案承認の件

遊川庶務幹事より上記2件について説明があった。審議の結果、異議無く承認された。

第二号議案 2002年度決算報告並びに2003年度予算案承認の件

横山会計幹事より上記2件について説明があった。また栗林監事から2002年度決算報告について監査報告がなされた。審議の結果、異議無く承認された。

第三号議案 役員の新任に関する会則変更の件

遊川庶務幹事より、編集委員長の再任期間延長に関する会則変更が諮られ(会則第13条3)、審議の結果、異議無く承認された。

第四号議案 会長選挙について細則変更の件

遊川庶務幹事より、会長選挙における候補者推薦に関わる細則の変更が諮られ（役員等の選出についての細則第2条1）、審議の結果、異議無く承認された。

5. 2004年度大会について

遊川庶務幹事より、次回大会が広島大学において開催されることが報告され、大会準備委員会を代表して出口博則氏から挨拶があった。

2002年度事業報告と2003年度事業計画について

庶務幹事 遊川知久

上述のように、ニュースレターNo.8に掲載いたしました案が、総会と評議員会で承認されました。詳細はニュースレターNo.8の17、18ページをごらんください。

会則と細則の変更について

庶務幹事 遊川知久

上述のように、総会と評議員会で会則と細則の変更が承認されましたので、お知らせいたします。

役員再任に関する会則変更

第13条3 役員は、再任されることができる。ただし、編集委員長を除いて、引き続き4年を超えて同じ職に在任することはできない。

附則 本会則は2003年3月15日より実施する。

会長選挙についての細則変更

第2条 会長は、会員の選挙により選出する。評議員会は若干名の会長候補者を推薦することができる。

附則 本細則は2003年3月15日より実施する。

2002年度決算報告

通常会計		単価	員数	2002年度予算	2002年度決算	予算との差異
収入 会費						
	一般会員	5,000	740	3,700,000	3,617,360	82,640
	学生会員	3,000	70	210,000	173,000	37,000
	団体会員	8,000	40	320,000	237,500	82,500
	別刷り (APG)	180,000	3	540,000	411,680	128,320
	別刷り (分類)	40,000	2	80,000	81,700	1,700
	バックナンバー販売			50,000	518,070	468,070 注1
	利息			0	422	422
	雑収入			50,000	400,587	350,587 注2
小計				4,950,000	5,440,319	490,319
繰越金				5,762,974	5,762,974	0
合計				10,712,974	11,203,293	490,319
支出 印刷費						
	APG (52(2); 53(1,2)) 印刷費	1,000,000	3	3,000,000	2,663,281	336,719
	別刷り・カラー印刷費	180,000	3	540,000	324,240	215,760
	和文誌印刷費 (2(1), 2(2))	500,000	2	1,000,000	803,250	196,750
	和文誌別刷り印刷代	150,000	2	300,000	17,346	282,654
	NL 注3 印刷費	60,000	4	240,000	351,313	111,313 注4
	封筒等印刷費			150,000	57,136	92,864
送料・通信費						
	APG 送料	110	3,000	330,000	236,931	93,069
	和文誌送料	120	2,000	240,000	378,408	138,408 注5
	NL 送料	110	3,000	330,000	272,175	57,825 注5
	その他小包など			200,000	88,928	111,072
事務費						
	消耗品費			50,000	949	49,051
	アルバイト賃金			180,000	138,259	41,741
	自然史学会連合負担金			20,000	20,000	0
	総会費			0	0	0
	学会賞賞金・表彰	30,000	2	60,000	60,000	0
	会場補助費			100,000	100,000	0
	会議費			130,000	2,800	127,200
	編集費			180,000	390,439	210,439 注6
	手数料・その他			30,000	6,525	23,475
	自動振替口座確認手数料	100	800	80,000	25,830	54,170
	予備費			200,000	84,193	115,807
小計				7,360,000	6,022,003	1,337,997
次年度への繰越				3,352,974	5,181,290	1,828,316
合計				10,712,974	11,203,293	490,319
特別会計				予算	決算	
収入						
	前年度繰越金			1,887,343	1,887,343	
	利息			180	136	
合計				1,887,523	1,887,479	
支出						
	次年度への繰越金			1,887,523	1,887,479	
合計				1,887,523	1,887,479	

注1. 今年度は書店を通してのバックナンバー販売収入が多かったため。

注2. 主な収入は第1回大会からの寄付金21万、里見先生ご遺族からの寄付金10万、APGの著作権料5.5万。

注3. 表中、「日本植物分類学会ニュースレター」はNLと略記した。

注4. NLの印刷ページ数増による。

注5. NLと和文誌の同時発送を行ったため生じた差異。送料合計による差額はNLページ数増による送料増。

注6. 2001年度、2002年度分編集費をあわせて2002年度に支払ったため。

2003年度予算

通常会計	単価	員数	2003年度予算	前年度予算との差異
収入 会費				
一般会員	5,000	780	3,900,000	200,000
学生会員	3,000	72	216,000	6,000
団体会員	8,000	37	296,000	-24,000
別刷り (A P G)	180,000	3	540,000	0
別刷り (和文誌)	40,000	2	80,000	80,000
バックナンバー販売			100,000	50,000
利息			80	80
雑収入			50,000	0
小計			5,182,080	232,080
繰越金			5,181,290	-581,684
合計			10,363,370	-349,604
支出 印刷費				
APG (54(1) ,54(2)) 印刷費	1,000,000	2	2,000,000	-1,000,000
APG 別刷り・カラー印刷費	180,000	2	360,000	-180,000
和文誌印刷費 (3(1) , 3(2))	450,000	2	900,000	-100,000
和文誌別刷り代	50,000	2	100,000	-200,000
NL 印刷費	80,000	4	320,000	80,000
封筒等印刷費			200,000	50,000
送料・通信費				
APG 送料	110	2,000	220,000	-110,000
和文誌送料	145 注1	2,000	290,000	50,000
NL 送料	110	2,000	220,000	-110,000
その他小包など			200,000	0
事務費				
消耗品費			50,000	0
アルバイト賃金 (含発送代行)			180,000	0
自然史学会連合負担金			20,000	0
総会費			0	0
学会賞賛金・表彰	30,000	2	60,000	0
大会補助費			100,000	0
会議費			130,000	0
編集費			180,000	0
手数料・その他			30,000	0
自動振替口座確認手数料	100	100	10,000	-70,000
予備費			200,000	0
関西地区講演会補助費			30,000	30,000
小計			5,800,000	-1,560,000
次年度への繰越			4,563,370	1,210,396
合計			10,363,370	-349,604
特別会計				
収入				
前年度繰越金			1,887,479	
命名規約邦訳販売収入			1,600,000	
利息			180	
合計			3,487,659	
支出				
命名規約邦訳出版経費			1,500,000	
次年度への繰越金			1,987,659	
合計			3,487,659	

注1. 和文誌とNL2回を同時発送する場合の送料見積もり。

日本植物分類学会第2回大会報告

第2回大会準備委員長 渡邊邦秋

第2回大会を2003年3月14日から16日まで、新しく神戸大学の顔に加わった百年記念館で開催しました。晴れた日には南に、大阪湾、生駒・金剛山地、紀伊半島、淡路島まで一望できる見晴らしの良い大ホールです。第1回大会が、交通の便にめぐまれた新宿の科学博物館で多数の参加者を集められたので、本準備委員会は、“海を介して世界に翔たく大学”というキャッチフレーズを持つ神戸大学として『外国人を含む最先端の研究者に公開シンポジウムで“水と植物の関わり”(神戸大学スタッフの中心的研究テーマの一つ)について、ホットな話題を提供してもらおう事』と『できるだけ参加費と懇親会費を低く押さえて、多数の参加を呼び掛ける事、特に学会の将来を担う学生の参加を促すため大出血の懇親会費を設定する事』を目標に掲げて努力しました。おかげ様で招待講演者にはレベルの高い御講演を頂きました。また、一般121名、学生61名、計182名の参加者と、2日間に、口答発表29題、ポスター発表41題と、当初予定していた終了時間を延長するほどの申し込みを頂きました。若い人の参加が多く、活気にあふれた発表が多数ありました。第2回分類学会賞を受賞された、堀田満先生には『隔離と種分化 - 南九州から南西諸島地域を舞台とした - 』、白岩卓巳先生には『水生シダの知恵』という題名で、お二人の長年の研究成果の一端を御講演頂きました。また、懇親会には、一般89名、学生42名、計131名と、大会参加者の72%にもものぼる参加があり、会場は、始め(る前)から終わりまで満員の盛況でした。福岡誠行先生や永益英敏先生を中心に、本格的なそば打ちを披露していただき、日本酒指導師範の副島顕子先生の解説で、御当地、“灘”のしぼりたて生酒を中心に解説・利き酒を楽しませてもらいました。会員の方々からのビール・お酒の差入れは、大いに場を盛り上げ、収支を潤して頂きました。

全ての催しに御協力いただいた参加者の皆様に厚く御礼申し上げます。来年の広島大会でまたお目にかかれること楽しみにしております。

編集後記

緑もぐんぐん濃くなりましたが、みなさんお元気ですか？今年の連休は鈴鹿の低山などをぶらぶらしてきましたが、シカの食害には驚きます。下草で残っているのはバイケイソウやトリカブトのような毒のありそうなものばかり。学会から要望書も出ましたが、貴重な植物がなくなるだけでなく、ここ数年のうちに多くの野山で植生が変わってしまうのではないかと心配しています。みなさんのまわりではどうでしょうか。もちろん、シカの話だけでなく、耳寄りな話題がありましたらぜひお教え下さい。原稿お待ちしております！

〒464-8601 名古屋市千種区不老町
名古屋大学博物館
西田佐知子

電話：052-789-5764 ファックス：052-789-5896
Email: nishida@num.nagoya-u.ac.jp

シカ植食防止要望書について

絶滅危惧第一委員会 井上健

絶滅危惧植物・移入植物専門第一委員会では、今年度よりレッドデータの見直し作業を進める予定ですが、調査の説明会の席上、各地の主任調査員よりシカによる絶滅危惧植物の採植被害が甚大であるという指摘をうけました。絶滅リスクを軽減するため以下のような要望書を作成し、会長名で関係機関に送付しました。実際は主任調査員の方々にご足労願ひ、関係機関に説明の上、手渡しました。予算などの問題で効果的な措置がとれるかは今後の課題ですが、関係機関に協力し、絶滅リスクを軽減するよう努力していきたいと考えています。

南日本・西日本における絶滅危惧植物保全のためのシカによる植食の防止に関する要望書

環境大臣	鈴木俊一	殿
林野庁長官	加藤鐵夫	殿
鹿児島県知事	須賀龍郎	殿
宮崎県知事	松形祐堯	殿
熊本県知事	潮谷義子	殿
奈良県知事	柿本善也	殿

日本植物分類学会では絶滅危惧植物・移入植物専門第一委員会（井上健委員長）を設け、日本の野生植物の現状を調査し、その絶滅リスクの程度や絶滅リスクの要因について調べています。調査結果および日本各地の植物専門家との情報交換より、シカの植食（食害）が絶滅危惧植物を含めた多くの植物種の重要な減少要因であることが明らかになっています。

シカの個体数が極端に増加した地域では、シカの食物になる植物はほとんど食べ尽くされてしまう現象が見られます。とくに西日本～南日本を中心に植生破壊が広がっており、シカの植食により絶滅が心配される植物が多くなっています。シカの植食により絶滅が危惧される植物または個体群は、以下の地域で特に著しいことが確認されました。

1) 鹿児島県屋久島では1970年頃には普通に見られたヤクイヌワラビやヤクシマタニワラビ（ともに絶滅危惧 IA 類）がほとんど見られなくなりました。コスギイタチシダも激減しました。シマヤワラシダ，シマヤマソテツ，アオイガワラビ，タイワンヒメワラビ，ホウライヒメワラビなど（絶滅危惧 IA 類），日本では屋久島にのみ生育するものも激減しました。

2) 宮崎県ではえびの高原の天然記念物のノカイドウが稚樹の植食のため絶滅が危惧

されています。霧島山系御池ではキリシマイワヘゴが絶滅したと思われ、タヌキノシヨクダイやキリシマタヌキノシヨクダイ（共に絶滅危惧 IA 類）が確認できない状況です。また、世界遺産申請中の綾の照葉樹林の林床植物はほとんどなくなり、ヤクシマラン（絶滅危惧 II 類）・ホンゴウソウ（絶滅危惧 IB 類）などの絶滅が懸念されています。

3) 熊本県市房山では、林床植物が食べ尽くされ、南限のキレンゲショウマが現在確認できていません。また脊梁山地に群生していたキレンゲショウマやヤマトグサも激減し、ほとんど見られなくなりました。

4) 奈良県大台ヶ原・大峰山系ではコウモリソウ（近畿地方では、大峰山系のみ分布、分布南限）、オオダイトウヒレン（近畿地方での分布は局所的）、ミヤマトウヒレン（大峰山系と四国に隔離分布）が激減しています。

上記の例が報告されたそれらの県では、特に絶滅危惧植物種を保全するため至急対策を講じる必要があると思われまます。

絶滅危惧植物種をシカの植食から保全するためには、長期的な対策と緊急避難的な当面の対策が考えられます。長期的な対策として、シカの個体数調節、シカの食料となる他の植物資源の確保など総合的に問題の解決を図る必要性があります。緊急避難的な対策として、絶滅危惧植物種をシカから隔離することが考えられます。そのためには絶滅危惧植物種の生育地または最近まで生育地だった場所に柵を設置し、シカを排除することが望ましいと思われまます。

また、特定の絶滅危惧植物に限らず、大台ヶ原や屋久島のように隔離分布種や南限分布種が集中する地域では、植物相そのものの保全が重要です。このような地域では、柵の設置によってシカの植食を排除した自生地の確保が必要と考えられます。柵は大面積のものは必ずしも必要でなく、小面積のものを多数設置する方が大きな効果があります。

緊急に柵を設置し、シカの食害から保全すべき植物種と地域は以下の通りです。関係機関におかれては速やかに審議し、対策を講じられることを要望いたします。

ヤクイヌワラビ、ヤクシマタニワラビなど（鹿児島県屋久島）

ノカイドウ、キリシマイワヘゴ、キリシマタヌキノシヨクダイ、ヤクシマランなど（宮崎県霧島山系および綾の地区）

キレンゲショウマなど（熊本県市房山および脊梁山地）

コウモリソウ、オオダイトウヒレン、ミヤマトウヒレンなど（奈良県大峰山系および大台ヶ原）

2003年 3月 31日

日本植物分類学会 会長 加藤雅啓

お知らせ

平成 15 (2003) 年度野外研修会のお知らせ

徳島県立博物館 小川誠

ナカガワノギクが咲く溪流とシオギクの咲く海岸の散策

徳島県的那賀川は、県内随一の多雨地域を流れており、上～中流ではキシツツジやアオヤギバナなどの溪流沿い植物が多数生育しています。ナカガワノギク(徳島県のみ)に分布)やトサシモツケ(徳島県と高知県)などの分布に限られた植物も見られます。溪流沿いは、まさに種分化の舞台であり、分類学的な再検討が必要な植物もいくつかあります。今回の野外研修では、そうした那賀川の岩場を歩きながら、独特の溪流沿い植物を観察します。

さらに、太平洋に面した日和佐町の海岸では、この時期シオギクが咲き乱れています。シオギクは徳島県と高知県の海岸にしかみられないもので、舌状花弁が無い少し変わったキクです。舌状花弁が無いから花が目立たないわけではなく、黄色い頭花を多数着け、多くの昆虫が花を訪れます。また、この海岸にはアコウやタイキンギクも見られます。晩秋の一日、岩場ではアゼトウナが咲き乱れ、黒潮に洗われる海岸で、植物をじっくり観察します。



ナカガワノギク

期日と日程：2003年11月8日(土)～9日(日)

8日：室内研修および懇親会

15:00～ 室内研修(会場：徳島県立博物館)

徳島県の植物相：木下 覺(徳島県植物研究会会長)

野外研修で見られる植物：小川 誠

19:00～ 懇親会(会場：JR徳島駅周辺を予定)

9日：野外研修会

集合：徳島駅前、午前8時。解散：徳島駅前、午後4時。

目的地：徳島県那賀郡鷲敷町的那賀川と徳島県海部郡日和佐町の海岸

* 移動は自家用車に分乗していただきますので、ご協力をお願いいたします。

参加費：300 円（通信費および資料代）。懇親会費は4000 円を予定。

案 内：小川 誠および徳島みどりくらぶ会員。

募集人員：先着 30 名。

申込先（郵便、ファックス、電子メールでお願いします）：

〒770-8070 徳島市八万町向寺山 文化の森総合公園 徳島県立博物館

小川 誠 (ogawa@staff.comet.go.jp) Tel : 088-668-3636 Fax: 088-668-7197

申込締め切り：9月20日必着

申し込みの際は、下記事項をお知らせ下さい。

氏名、連絡先住所と電話番号、懇親会の出欠。

自家用車で来られる場合は同乗可能な人数、また、車に同乗したい場合はそのむねを書き添えてください。

徳島への交通：

- 1．徳島空港：東京（羽田）、福岡、名古屋方面より。空港からJR徳島駅前までバスで約30分。
- 2．高速バス：JR徳島駅発着。東京（夜行）、大阪、神戸、関西空港、京都、岡山、広島、名古屋、高松、松山、高知など。
- 3．JR：高松より特急で約1時間10分。
- 4．自家用車：高速道路であれば、鳴門IC、板野IC、徳島IC下車。
- 5．フェリー：和歌山より南海フェリーで約2時間。

徳島県立博物館へはJR徳島駅前より徳島市営バスまたは徳島バスで文化の森行きへ（約20分）。

注意事項

- ・申し込まれた方には、追って詳細な案内を差し上げます。その際、JR徳島駅周辺のホテルのリストもお送りいたしますので、宿は各自でお申し込みください。



シオギク



観察場所

BG Plants 和名 - 学名インデックスの公開について

研究用植物データベース作成グループ代表 邑田仁

BG Plantsとは研究用植物データベース作成グループが行っている、「施設に保存されている研究用植物のデータベース」(Data-base on the plants kept in the Botanical Garden)の略称です。このデータベースプロジェクトは日本学術振興会の科学研究費補助金(研究成果公開促進費)を受けており、日本全国の植物園等の施設に系統保存されている植物データの登録・公開を目指しています。これまでに登録されたデータは、BG Plantsウェブページ(<http://www.bg.s.u-tokyo.ac.jp/bgplants/>)で公開されています。平成13, 14年度の補助事業(H13年度(課題番号:137002)、H14年度(課題番号:147003)、研究代表者:邑田仁(東京大学))では、このデータベースの植物名に関する詳細情報が容易に得られるシステム作りを目的として、米倉浩司(東北大学)と梶田忠(東京大学)を中心に、和名 - 学名インデックスの作成を行いました。このインデックスのプロトタイプが2003年5月下旬をめぐりに公開される見込みとなりましたのでお知らせいたします。

「BG Plants 和名 - 学名インデックス」では、北海道から沖縄・小笠原までの日本に自生、帰化している全ての維管束植物と主な栽培植物について、和名(標準和名と異名)、学名(正名と主な異名およびその出典)、その学名が引用されている日本の主要植物誌(「日本の野生植物」(1982-2003);「原色日本植物図鑑」(1957-1979);「新日本植物誌」(1983);「Flora of Japan」(1993-))の頁番号、所属する科名(新 Engler, Cronquist, APG)とそのコード番号をリストアップしました。今回BG Plantsウェブページで公開するシステムでは、和名や学名などのキーワードを用いて、これらの情報を容易に検索できるようになっています。また、ウェブ経由で和名リストをインプットすると、学名付きの植物目録が希望の分類体系に従って自動的に作成されます。

すでに日本植物分類学会等が主体となって、Flora of Japanのデータベースが公開され、和名と学名の対応はネットワーク上で一応は検索できるようになっています。しかし、出版物から作成したデータベースは、データの更新間隔が非常に長いか更新されないというデメリットがあります。その点、「BG Plants 和名 - 学名インデックス」では、メインのリストをネットワークデータベース上に置いており、利用者からのフィードバックや最新の研究発表に基づいて、リストを随時更新して行きます。また、ハーバリウム等における利用者の便を図るため、冊子体の発行も計画中です。このリストをさらに使いやすいものにして行きたいと考えておりますので、ぜひ下記URLにアクセスして、「BG Plants 和名 - 学名インデックス」をお使いの上、ご意見をお寄せ下さい。また、日本植物分類学会会員で冊子体原稿(評価版)の評価を希望される方には、2003年6月頃に原稿のPDFファイルを配布いたします。BG Plantsウェブページ(<http://www.bg.s.u-tokyo.ac.jp/bgplants/>)から申込みを行ってください。

日本植物分類学会 2004 年度大会について

庶務幹事 遊川知久

2004 年度大会の日程と準備委員の構成をお知らせいたします。

開催地：広島大学（東広島キャンパス）

日程： 2004 年 3 月 13 日(土)～ 15 日(月)

準備委員：出口博則、近藤勝彦、山口富美夫、井鷲裕司、坪田博美、有川智己

「地衣類標本庫のなりたちと運営」講座のご案内

国立科学博物館 柏谷博之

国立科学博物館の地衣類標本庫は多数の基準標本、エキシカータ標本を含む約15万点の標本を有しています。これらデータベース化された標本は、質量共に充実し、研究・教育活動に活潑に利用されています。この講座では、このような第一級の標本庫が確立するに到った歴史と運用方法を解説します。これから国立科学博物館の標本を利用しようとしている研究者だけではなく、標本庫の運営に興味をお持ちの方には有益だと思えます。

日時：平成 15 年 6 月 15 日（日） 午前 10 時 - 午後 3 時

（午前中は講義、午後は標本庫で解説を行います。）

会場：つくば市天久保 4-1-1 国立科学博物館 植物研究部棟 会議室

講師：黒川 道（富山県立植物園長） 柏谷 博之（国立科学博物館）

申し込み：Fax (029-853-8978) または E-mail (hkashiwa@kahaku.go.jp) で柏谷まで

備考：地衣類研究会・国立科学博物館 共催

連絡先：〒 305-0005 つくば市天久保 4-1-1 国立科学博物館 植物研究部

柏谷博之 Tel : 029-853-8978

詳細および交通アクセス等については次の URL をご覧下さい。

<http://home.hiroshima-u.ac.jp/lichen/info/info.htm>

ホームページ、もうみましたか？

日本植物分類学会ではホームページを設けています。Flora of Japan の内容公開をはじめ、耳寄りな情報やリンクも充実しています。ぜひ一度ご覧下さい。

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsps/>

「菌類の多様性と分類」講座のご案内

菌学教育研究会 布村公一

国立科学博物館筑波実験植物園と菌学教育研究会の共催により、講座「菌類の多様性と分類」2日間コースを下記のように開催いたします。本年度は会場を筑波地区に移し、金曜日（ウィークデー）に主として研究者向き、土曜日（休日）には主として同好者向きの講座を開催します。

平成 15 年度 講座日程

時間: 10 : 00 ~ 16 : 00

6月27日(金) ハラタケ目の分類 森林総合研究所九州支所 根田 仁

6月28日(土) 顕微鏡の使い方 国立科学博物館植物研究部 土居祥兌

菌懇会 浅井郁夫、菌学教育研究会 布村公一

なお、28日の午後に、同好会の方々との質疑応答および話し合いの時間を1~2時間持ちたいと思います。

場所: 国立科学博物館筑波実験植物園 研修展示館実習室

(茨城県つくば市天久保4-1-1 Tel. 029-851-5159)

交通手段および宿泊施設については申し込まれた方に別途お知らせいたします。

募集人員: 1講座約20名

参加費: 1日につき 一般 2,000円 学生 1,500円

申込: 往復はがきの往信面に次の事項を書いて、平成15年6月20日(消印有効)までに申し込んで下さい。

往復はがきに書く事項 1 出席したい日、2 氏名、3 住所、4 連絡先電話番号、
5 勤務先または学生の場合は在籍している大学名、
6 返信の表書き

申込先: 〒187-0032 東京都小平市小川町2丁目1299-49

菌学教育研究会事務局 布村公一

Tel: 042-343-6836 E-mail: BZG22155@nifty.com

問合せ先: 国立科学博物館筑波研究資料センター Tel: 029-851-5159

国立科学博物館植物研究部 〒305-0005 つくば市天久保4-1-1

土居祥兌 Tel: 029-853-8973 E-mail: y-doi@kahaku.go.jp

書籍の著者割引のお知らせ

ニュースレター担当幹事 西田佐知子

今年度の学会賞を受賞された堀田満氏から、分類学研究者必見の本2冊について、「著者割引サービスを仲介しましょう」との申し出をいただきました。約2割引とたいへんお得になっております。ぜひこの機会をご利用ください。

世界有用植物事典

堀田満（編集代表）、緒方健、新田あや、星川清親、柳宗民、山崎耕宇編、1505ページ。
平凡社、本体価格26500円（税別）、（著者割引はこれより2割引。）

衣食住、薬用、観賞用から文化的象徴に至るまで、人間と関わってきた世界中の植物約8500種について解説した事典。植物名からも、「酒」「菓子」など、植物と関わり深い事項からも調べることができる工夫がされている。しばらく在庫切れとなっていたが、オンデマンド方式（原稿をコンピュータに保存し、受注した分だけ印刷・製本して販売する方式）で再度発行されることになった。

鹿児島県レッドデータブック（植物編）（動物編）

発行 鹿児島県環境技術協会、本体価格（1冊）3500円（税別）；2冊（動植合わせて）6000円（税別）、（植物編は著者割引で3000円以下の予定。2冊合わせた著者割引価格については未定。）

鹿児島県はとても絶滅危惧生物が多い地域なので、動物と植物が分冊になったが、どちらも600ページを超える大部なもので、植物編は危惧種以外に、九州南部や南西諸島北部が南限や北限になっている「分布特性上重要な種」も含んで、約2500種が記述されている。280枚以上（500種を超える）分布図と34ページのカラー図版が含まれており、自然保護に携わる人だけでなく植物地理に関心がある人にとっても大変興味深い資料になっている。

申込方法

* 著者割引を利用して購入するためには、Eメールを使っている方とEメールを使っていない方で申込方法が違います。Eメールの注文は堀田氏が出版社（協会）に転送して注文をしてくれます（直接注文されると著者割引にならない）。Eメールでない方は、西田がこれをメールに記入して、西田 堀田氏経由で出版社に注文します。Eメールの方は、下記の申込方法を間違えないでください（間違えた場合、注文できない可能性もあります）。

Eメールを使っている方

1. Eメールのタイトルに、「有用植物」、「鹿児島県RD（植）」、「鹿児島県RD（植・動）」のいずれか、あるいは両方を書く（必ずこのタイトルにしてください）。「鹿児島県RD（植）」は植物編のみ希望する方、「鹿児島県RD（植・動）」は植物編・動物編合わせて希望する方です。

2. Eメールの本文に、希望する本の種類(「鹿児島県RD」の場合は、植物編のみか、植物編・動物編両方か)、部数・希望者の名前・郵便番号と住所(送り先)・電話番号・Eメールアドレスを書く(他のことは書かないでください)。
3. 上記のEメールを、Mitsuru.Hotta@mb9.seikyoku.ne.jp か hotta@k-kentan.ac.jp に送る。

Eメールを使っていない方

希望する書物名・希望部数・希望者の名前・郵便番号と住所・電話番号(あればファックス番号)を書いて、下記までファックスか郵便で送る。

〒464-8601 名古屋市千種区不老町 名古屋大学博物館 西田佐知子

Fax: 052-789-5896

支払方法

本に郵便振込用紙が同封されて届きますので、指定された金額を振り込んでください。

お問い合わせ

ご質問は、西田までEメールかファックスでご連絡ください。

西田佐知子 Email:nishida@num.nagoya-u.ac.jp、Fax:052-789-5896

会費納入と自動振替利用のお願い

会計幹事 横山潤

本学会の会費は前納制で、一般会員5,000円、学生会員3,000円、団体会員8,000円です。納入状況はニュースレター送付の際の宛名書きの右下に「納済会費：数字」という形で示してあります(2002年度から自動振替制度をご利用の方は、数字の代わりに「自動振替」と記入されています)。この数字が2003未済の方は、以下の郵便振替口座にお早めに納入いただきますよう、よろしくお願い致します。

口座番号：00120 - 9 - 41247

名 義：日本植物分類学会

ご承知のように昨年度より会費納入に自動振替をご利用頂けるようになっております。会計事務削減のため、なるべく本制度をご利用頂きますよう、よろしくお願い致します。ご希望の方は、自動振替依頼書にご記入・ご捺印の上、随時会計幹事にお送り下さい(ただし2003年度の会費引き落とし手続きは終了しておりますので、ご利用は2004年度からになります)。依頼書をご希望の方は会計幹事までお問い合わせ下さい。

新年度を迎えまして異動をされた会員の方は、新住所をお忘れなく会計幹事宛にお知らせ下さい。その他、会費納入に関するご質問、納入状況のご照会など、随時承っておりますので、お気軽にお知らせ下さい。会計幹事の連絡先は、ニュースレター巻末をご参照下さい。

連絡員からときどき便り

中国四川省瓦屋山調査行・後編・
大阪府立大学 山下純

我々は二日間を雲の中に暮らして、三日目の朝、名残惜しい山上を辞した。尾根の山道を降っていくと、山上の針葉樹林とは対照的に、青葉滴る広葉樹林が現れはじめた。カエデ属、カバノキ属、ハシバミ属、サクラ属、*Davidia*などが目につく。降りるにつれて次々と違う植物が現れる。

山道沿いは森が少し開けていて、草本が鬱蒼と茂る。中に混じってユキザサ属の *Smilacina atropurpurea*、*S. tatsienensis* が生えている。林床の暗い所に、ジャノヒゲ属の *Ophiopogon sylvicola* が群生する。これは細い根茎が高く伸びあがって、日本のジャノヒゲ属とは大分印象が違う。林冠に覆われた岩壁に、ショウジョウバカマ属に近縁な *Ypsilandra thibetica* が、ひっそりと若い果実を实らせる。

林床や、あちこちの岩壁に、一回羽状複葉の小型のイノデ属が何種もある。*Polystichum* cf. *atkinsonii*、*P. hecatopteron*、*P. thomsonii* など、場所によって種が違う。二回羽状複葉のイノデ属では、イノデ近似種とヤシャイノデがある。キジノオシダ属の *Plagiogyria assurgens*、*P. communis* など。孢子葉が伸びようとして、肋骨のような羽片がくねっている。まるで踊っているようだ。

下山路では他に、シロバナエンレイソウ、タケシマラン属の *Streptopus parviflorus*、ツクバネソウ属の *Paris axalis*、*P. thibetica*、*P. polyphylla*、小型の *Disporopsis*、クサスギカズラ属の *Asparagus filicinus*、チゴユリ属、サルトリイバラ属、オモト、*Campylandra* (この属はオモト属に含めるのが適当。Yamashita & Tamura, submitted) 巖ついとウゲシバの如き *Huperzia crispata*、クラマゴケ?、コケシノブ属、コバノイシカグマ近似種、イワガネゼンマイ属、ホウライシダ、ナチシダ、コバノヒノキシダ?、ヒロハヤブソテツ、オシダ属の *Dryopteris reflexosquamata*、*D. pycnopteroides*、ミヤマクマワラビ、*Diacalpe*? 1種、カラクサイヌワラビ、*Athyrium fangii*、*A. cf. suprapubescens* などのメシダ属、ミヤマシケシダ、ミヤマシダ、キヨタキシダ近似の小型種、シケチシダ、オオバショリマ属、エビラシダ、イワウサギシダ等があった。

標高1880mのロープウェイ駅まで下りると、車が待っていた。柳江の町まで、山袈を縫う長い道中を残すばかりである。時折遠くで発破がこだまする。もうじき全区間舗装になる由。山麓部はおおむね広葉樹林で、シイ属、マテバシイ属、タブノキ属、クロモジ属、ハマビワ属、ハイノキ属、モチノキ属、ツバキ属、ヒメツバキ属の *Schima sinensis*、ヒサカキ属が目につく。断崖にハイコモチシダ? が大きな葉を無数に垂れる。

急ぐ道中だったが、メタセコイア植林の林縁で停車した。辺りはナチシダ、オオバノハチジョウシダ、オオヒメワラビモドキ、シケチシダ属の *Cornopteris omeiensis*、オオクリハラン、クラマゴケなどがひしめき合う。その濡れた緑の中に、ウバユリ属の

*Cardiocrinum giganteum*

Cardiocrinum giganteum が、白い花被片に濃い紫紅色の化粧をして、何本も突っ立っている。車中からは他にスギナ、イヌドクサ？、ワラビ、クジャクシダ、モエジマシダ、オオバノイノモトソウ？、ハリガネワラビに似た巨大種、ヘラシダ属なども見た。

柳江から成都への途中、杪楞峡に立ち寄った。小船に乗って霧の中を進むと、岸辺の岩肌にキクシノブ属が群れ、峡谷の奥にヘゴ属の林が霞む。杪楞はヘゴの意である。道路脇の煉瓦積みにホウライクジャクを見た。

ほんの数日間で物足りなかったが、充実した調査行だった。ここに改めて Pu Fa-ding 先生、Wang Ping-li 先生、Liu Chao-lu 先生、そして田村実先生に感謝します。あの時見られなかつ

た山麓の谿間に、どんな植物が隠れているだろうか。また行ってみたいものだ。

藻（も）便り・1・

金沢大学 石田健一郎

春になると気持ちがソワソワとして落ち着かなくなり、何かと理由をつけては野山へ出かけていくのは陸上植物の研究者だけではない。藻類の研究者もそうだ。しかし、藻類屋が目指すのは野山ではなく海である。春の海岸は、一年のうちで最も多くの種類の海藻が繁茂し、最も華やかで美しい季節である。ちょうど陸上で色とりどりの花が咲き乱れるように、赤や緑や黄色の海藻のじゅうたんが岩を覆いつくす。この時期はまた、明るい昼間に最も潮がよくひくので、海藻の磯採集に最適の季節でもある。そんなわけで、普段は単細胞の微細藻を扱っている私でも春になるとなんとなくソワソワしはじめ、海藻を見に海へ出かけて行きたくなる。

私が筑波大学の大学院生の頃は毎春、お手伝いという名目で静岡県の下田で行なわれる臨海実習に同行し、初めて海藻に触れる学生達を相手に「これは紅藻のタンバノリ、これは褐藻のフクロノリ」などと先輩面をして教えてあげるのが楽しみであった。海藻類の同定は、それを初めて学ぶ学生にとっては実に訳の分からない作業であ

る。海藻類には大きく緑藻類、紅藻類、褐藻類（それぞれ緑色植物門、紅色植物門、不等毛植物門に所属）があるのだが、同定は、自分が今見ている海藻がその3つのうちのどのグループに入るのかを見分けることから始まる。しかしこれが大変なのである。ついさっき見た海藻と今見ている海藻は全く同じに見えるのに先生には「それは門（植物門）が違うよ。」などと言われてしまうことも珍しくない。実際、紅藻なのに茶色いものや緑色のものも少なくないし、褐藻であっても緑色っぽく見えるものもある。形や手触りにしても互いによく似ているものがかかりある。これらを明確に区別できる先輩達はどこか変なのではないか、と学生達は思ったに違いない。

しかし、“一見”互いによく似ているようにみえる海藻も、進化の上では全く別の生物といえる。この場合の“全く別”というのは単に“系統的に遠い”ということではない。“起源そのものが異なる”という意味である。紅藻や緑藻（そして陸上植物）は、一次共生という過程によってラン藻を葉緑体として保持することで「植物」となった生物群である。一方、褐藻は二次共生と呼ばれる過程によって、もともと無色の鞭毛虫だったものが紅藻を細胞内に取り込んで葉緑体として保持することで植物化した生物群の一つである。このような起源の違いは、両者の細胞構造の違いにも大きく反映している。紅藻の細胞は、2枚の包膜に囲まれた葉緑体を細胞質に持つのに対して、褐藻では葉緑体は4枚の包膜に囲まれ、しかも最外膜は小胞体膜の一部（つまり小胞体内腔に3重包膜の葉緑体が入っている）なのである。外見上は互いによく似て見える紅藻と褐藻でも、実は起源も細胞構造も異なるのである。

一度このような事実を知ってしまうと、海藻を見る目がこれまでとは大きく変わってしまう。最近、海藻採集に出かけて紅藻と褐藻が隣り合って生えているのを見ると、それらの背後にある進化の歴史を感じずにはいられない。これら2つの“植物”は起源が全く異なるにも関わらずなぜこれほどまでに似ることができたのだろうか？共生による葉緑体の獲得が生物進化におよぼした影響は計り知れない。お刺身のツマにオゴノリ（紅藻）とワカメ（褐藻）が出てくると、オゴノリを食べながら「葉緑体の包膜が2枚」、ワカメを食べながら「葉緑体の包膜が4枚」と思わず呟いてしまいそうな今日この頃である。



春の干潮時の海岸。（兵庫県淡路島
由良にて大田修平氏撮影）

蓼食う虫便り・1・

東北大学 米倉浩司

「蓼食フ蟲モスキズキトヤラ、余モ亦蓼科ニハ多少ノ趣味ヲ有ツモノナリ」日本産タデ科植物をまとめた中井猛之進博士の論文(1909)の冒頭から引用した一文である。私はタデ科植物を研究対象にしているが、タデ科は昔も今も植物研究者にとっては取っつきにくいものであることには変わりがなく、これを研究する者は大抵「蓼食う虫」を自称するはめになる。取っつきにくくさせる背景には色々考えられるが、身近な種にはあまり美しいものがないの見えるのも一因ではなからうかとも思う。今回紹介するイブキトラノオ属は、その中ではかなり魅力的な花をつけると筆者は思うのだが、日本ではあまり身近な植物とは言えない。

イブキトラノオ属 *Bistorta* は、根茎が発達して根出葉を持ち、花被片5枚、雄蕊8本、花柱3本をもつ花が茎頂に花穂状の偽総状花序をなしてつく(若干の例外あり)点で特徴づけられるグループである。世界には北半球に30種ほどがあるが、そのうち半分以上が中国南西部~ヒマラヤ山脈に分布しており、アジア以外の地域に固有の種は1種のみである。日本にはイブキトラノオ *B. major* var. *japonica* 等5種が知られていたが、1995年に筆者らが宮城県と福島県の阿武隈山地からアブクマトラノオ *B. abukumensis* (写真)を記載したので6種となった。アブクマトラノオは、阿武隈山地の沢沿いの林床に生育しており、5月初めに開花してこの拙文がニュースレターに載る頃には葉ばかりの姿となる。このような特徴は、草原や岩礫地のような開けた環境を好み、真夏に開花するものが多いイブキトラノオ属の中では極めて例外的だが、実は残る日本産5種のうちハルトラノオ *B. tenuicaulis*、クリンユキフデ *B. suffulta* の2種もアブクマトラノオのような春咲きの森林植物であり、このような種を多く含むのが日本産の本属植物の大きな特徴である。アブクマトラノオは、葉の形はクリンユキフデに、花序の特徴はハルトラノオに似ており、これらの種と長い間混同されてきたために、人里近い谷川に生えているにもかかわらず



新種としての認識が遅れた。日本の植物は随分明らかになったとは言っても、まだまだ検討すべき点が多いことをこの事実は語ってくれる。

アブクマトラノオ (福島県原町市新田川にて撮影)

会員消息

新入会

- 岩波 均 〒392-0015 長野県諏訪市中洲中金子 3232
 及川義明 〒311-2215 茨城県鹿嶋市和 1763-2
 岡田 元 〒351-0198 埼玉県和光市広沢 2-1 理化学研究所 微生物系統保存施設
 小栗恵美子 〒739-8526 広島県東広島市鏡山 1-3-1 広島大学大学院理学研究科生物科学専攻
 河野和博 〒915-0084 福井県武生市村国 3-4-16
 志岐和紀 〒640-8423 和歌山県和歌山市松江中 1-5-7
 富永孝昭 〒320-0865 栃木県宇都宮市睦町 2-2 栃木県立博物館
 中村 剛 〒903-0129 沖縄県西原市千原 1 琉球大学大学院理工学研究科海洋自然科学専攻生物系
 服部 力 〒305-8687 茨城県つくば市松の里 1 森林総合研究所
 本城正憲 〒305-8572 茨城県つくば市天王台1-1-1 筑波大学生命環境科学研究科植物育種学研究室
 脇田悟寿 〒903-0129 沖縄県西原市千原 1 琉球大学教育学部理科
 横溝裕二 〒243-0004 神奈川県厚木市水引 1-6-11 ハイツ水引 101 号
 麻布大学附属渕野辺高校自然科学部 〒229-0006 神奈川県相模原市渕野辺 1-17-50

住所変更

- 有川智己 〒739-8526 広島県東広島市鏡山 1-3-1 広島大学大学院理学系研究科生物科学専攻
 小林史郎 〒781-8125 高知県高知市五台山 4200-6 高知県立牧野植物園
 鈴木和雄 〒770-8502 徳島県徳島市南常三島町 1-1 徳島大学総合科学部自然システム学科
 戸崎弥生 〒509-6107 岐阜県瑞浪市須野志町 2-63 フォーブル須野志 203 号
 内貴章世 〒606-8501 京都市左京区吉田本町 京都大学総合博物館
 西田謙二 〒524-0021 滋賀県守山市吉身 1-3-43
 沼宮内明 〒020-0116 岩手県盛岡市箱清水 1-10-15
 細谷治夫 〒981-3215 宮城県仙台市泉区北中山 1-25-11
 益山樹生 〒167-0041 東京都杉並区善福寺 2-6-1 東京女子大学文理学部数理学科
 松本雅道 〒869-2301 熊本県阿蘇郡阿蘇町内牧 645 松田アパート 1 号
 真鍋 徹 〒805-0071 北九州市八幡東区東田 2-4-1 北九州市立自然史・歴史博物館
 林 蘇娟 〒690-8504 島根県松江市西川津町 1060 島根大学生物資源科学部生物科学科

退会

小原宏文 長尾英幸

入会申込、住所変更、退会届、会費納入、購読
 申込などは下記へご連絡ください。

〒980-8578 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉
 東北大学大学院生命科学研究科生態システム生命
 科学専攻
 日本植物分類学会 横山潤（会計幹事）
 Phone:/Fax: 022-217-6689
 E-mail: jyokoyam@mail.cc.tohoku.ac.jp

会費：一般会員 5,000 円、学生会員 3,000 円、

団体会員 8,000 円

郵便振替 00120-9-41247

平成 15 (2003) 年 5 月 19 日印刷

平成 15 (2003) 年 5 月 26 日発行

編集兼 名古屋市千種区不老町
 発行人 名古屋大学博物館
 西田佐知子

発行所 つくば市天久保 4-1-1

国立科学博物館筑波実験植物園
 日本植物分類学会